

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年8月12日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	APRU	派遣先大学:	モンテレー工科大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

モンテレー工科大学は、メキシコ各地にキャンパスを有しており、今回滞在したのはPueblaにあるキャンパスであった。通っている学生も学校も裕福であり、メキシコ内でも名前は知られているようだった。

参加した動機

今回のプログラムに参加しようと思ったのは、まず今までなじみがあまりなかった中南米メキシコの文化を体感したいと思ったからである。そして、innovationやleadershipに関する授業と実践がうまく混ざったプログラム内容を踏まえて、自分が英語を使って何ができるのかという点を確認できる機会にもなると思ったことも理由である。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

今回はプログラム費用を先方の大学が指定した口座に振り込む形であったが、米ドルで海外送金しなければならなかった。そこで、東大から参加する学生のうちの1人が代表して全員分の費用を払うことで、手数料を抑えることができた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

10日間ほどのプログラムだったためビザは必要なし。アメリカ経由の場合は、ESTAの申請が必要になる。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

短期間なので、常備薬を持っていくだけで十分だと思う

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学から指定された保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

10日間ほどのプログラムだったため、特に支障もなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

メキシコはスペイン語が公用語であり、アメリカから来た学生のほかいくつかの学生はスペイン語も話せたため、自分も少しできればよかった、と現地で感じた。ただ、基本的にプログラムはすべて英語のためスペイン語ができなくても問題なかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特にないが、現地のことについて少しでも調べていくと見えるものも少し異なってくると思う。

## 学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

プログラムの要だったのが、Pueblaが抱える問題に対して学生がアイデアベースで解決策を考えるというものであった。その際に、考える際の一助として、「ビジネスモデル」や「プレゼンの方法」、「イノベーション」に関する短いレクチャーもあった。さらに、メキシコ文化を知るためにも、Mexico CityやPueblaのツアーもあった。現地の学生も参加していたが、ほかの国からの学生に楽しんでもらおうとして、街中や夜に様々な場所に連れて行ってくれた。

②学習・研究面でのアドバイス

各国の学生と英語で議論する時間が多く、積極的に参加するために英語で議論することに慣れておくことが大事だったように思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

議論の中で自分の言いたいことを的確に伝えるためにも、常に集中して英語を話して聞くことに慣れておくとうまいと思う。

## 生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

先方の大学が学生寮を準備してくれていた。二人一部屋だが、各個人に個室が与えられ、2人で共有するのはシャワーとトイレのみであった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

10日間だけであり、基本的に食事や交通費はプログラム開始前に払った費用に含まれていたため、日本で15,000円程度を両替した分だけで事足りた。街中を散策した際のお土産などに使用した。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

基本的にはキャンパスと寮で主に過ごし、キャンパスと寮の間の移動はバスだったため、特に不安を感じる要素もなく安全だった。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券は直行便でも乗継便でも主に10万円前後。プログラム費用が500USDであった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

奨学金は大学から6万円を頂いた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

スポーツを体験する時間もあり、メキシコで有名なサッカーのコーチに直接サッカーを習う機会があった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

常に監督者として大学の関係者が7, 8人は待機していた。さらに、現地の学生が16人ほど参加しており、彼らもプログラムに参加しつつほかの国からの学生をサポートしてくれていた。モンテレー工科大学のサポートは本当に手厚いものだった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

主に使用したのは、図書館、会議室、講堂、そして寮であった。前述のように大学が裕福なため、建物は新しいものが多く清潔感があった。Wi-fiも機能しており、大変過ごしやすかった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラム自体は10日間と短期間だったものの、アジア地域を中心にいろいろな国に新たな友人ができたのがよかったと思う。PueblaやMexico Cityの中心街を散策することも楽しかったうえ、そうした間に卒業後の進路や普段の学校生活など様々なことを話すこともできた。そして、いくつかのチームに分かれて議論した際には、少人数だったため濃密な議論をすることができた。自分がいま英語で何ができて何が不十分かという点についてもよく分かった。個人的には、議論のまとめとしてのプレゼンテーションがうまくいったことが満足であり自信にもなった。

②参加後の予定

様々な機会を見つけて、英語で議論したり発表したりすることに挑戦していきたいと思っている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

短期間のわりに得られるものも大きいうえ、短期間だからこそ参加のハードルも高くなく、非常にいいプログラムだと思います！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 8月 1日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	APRU ULP 2016	派遣先大学:	モンテレー工科大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input checked="" type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

<b>派遣先大学の概要</b>
メキシコ合衆国有数の名門大学であるモンテレー工科大学において、優秀な学生と、経験豊かな教員らとともに、素晴らしい環境で工学だけでなく様々な分野を学ぶことができる。
<b>参加した動機</b>
昨年のAPRU USP 2015 に参加してとても良い経験を得たため。
<b>参加の準備</b>
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
すべて自分自身でやり取りをせねばならないことが不便だった。返事が遅く、実際に聞いたことと現地の実物が異なったりした。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
なし。
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
なし。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
大学を通じたもののみ。
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
なし。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
なし。メキシコはスペイン語が公用語であり、多少慣れておくと良い。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

お土産として、日本のキャンデーは特に人気だった。ミルク味がおすすめ。持っていくと良い。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

教員、卒業生らとともに、講義を受け、タスクを解決する方法を考えるといった内容だった。教員がフレンドリー、講義が大変面白いなど、東大よりもはるかに内容の濃く印象的な講義ばかりであった。私はチョルーラ市のごみ問題を何とかすることに躍起だった。実際にごみ処理を担当する民間会社の話を聞き、労働者にインタビューし、実際にごみ箱をあさりまわったのは記憶に新しい。

②学習・研究面でのアドバイス

恥を捨てて果敢に話しかけてみるのが一番大事であると思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

スペイン訛りの英語を聞き取りづらいことがあった。遠慮なく質問していくほうがよい。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学のドミトリー。まだ建築途中であったこと、空調がないなど、大学でも把握しきれていないものがおおく、こればかりはどうしようもない。ただ、メキシコの場合は先進国なので大抵のものは購入できる。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

メキシコペソは空港で両替すべき。また、高速バスはよいが一般のバスは現地の学生と乗った方がよい。メキシコシティは標高が高く、疲れやすいので注意。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

まずは現地大学の担当に連絡する事。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券が13万程度、参加費500ドル

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

6万円を東京大学より支給していただいた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

現地学生は接待も任せられているので、積極的に友達と夜繰り出していくのがよいとおもう。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

とくにはない。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

かなり新しく、使い勝手が良い。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

他大学は豊富な資金援助を得て有意義に過ごしていた。海外だけでなく、日本の国立大でも同じ条件なのに支給額は全くことなり、同じ国立大として圧倒的に優秀な学生への福利厚生を充実させないことはやがて大きな影響が出るだろう。そこは大きく改善してほしい。なんならもっと審査を厳しくしてもいいので。優秀な学生が流れていく。とくに物価も高い日本で留学したいとおもう優秀な学生はそんなにいないことに驚いた。シンガポール国立や米国に(奨学金を得て)流れていってしまう。それでも、メキシコという日本の反対側の摩訶不思議な国にて、いままでの自分にはなかった知見や、体験をできたことを非常にうれしく思う。

②参加後の予定

未定

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

海外の大学生は極めて優秀であった。英語に限らず、実践的な経験など比べ物にならない。すべての体験は学問に通じると肝に命じ、自分が思ったことをやりぬいて経験を積もう。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 8月 4日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	APRU	派遣先大学:	モンテレー工科大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

モンテレー工科大学。31のキャンパスからなるメキシコの私立大学。

参加した動機

日常生活では得られないような刺激が欲しかった。また、海外の大学院に進学することを検討しており、自分の英語がどのくらい実用的なのかを確かめたかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

早めの準備が大切だと思う。新しくプログラムがホームページに掲載されるタイミングは去年以前のをみると大体わかるので、過去のもので興味があるものはいつ頃に募集が始まるかチェックしておく。英語能力の証明となるTOEFL等の試験、パスポートなども早めに準備しておいたほうが楽。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

自分の場合、アメリカ経由でメキシコに向かったためアメリカ乗り継ぎの際に必要なESTAといわれるビザのようなものを事前にネットで申請した。メキシコに関しては準備は何もいらない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

何も準備しなかったが、メキシコではなぜかお腹をずっとこわしていた。自分は胃腸が弱いため全員に当てはまるとは限らないが、胃腸薬くらいは持参してもよいかもしれない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大に勧められた保険に入った。実際、スーツケースを航空会社に壊されたので役に立った。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

卒論のための中間試問とプログラムの日程が被っていたが、指導教員に相談したところ試問の日程をずらしてもらえた。事務室には海外渡航書のようなものを提出した。



⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

持っている資格は英検2級のみ。英語を使う機会も大学に入ってからほとんどなし。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

お土産を持っていくと喜ばれる。海外のみんなは結構日本文化に興味を持っている。また、自分はパスポートなどの大事なものを収納しておく携帯ポーチを準備した。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中は講義やディスカッション、午後は観光やその他文化的な活動という1日の流れだった。講義中は毎回学生が質問するための時間を取り、多くの生徒がその時間に質問をしていたのが印象的で、東大の講義とは違うところだと感じた。

②学習・研究面でのアドバイス

英語でのディスカッションの練習を日本人同士でもよいので、やっておくと実際の時に戸惑わずに済むと思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

タクシー・ホテル・空港などで必要な質問や説明は英語だけでなく、現地の言葉でも言えるようにしておいたほうが良いと思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

宿泊先はプログラム先の寮で、プログラム先が手配してくれた。二人一部屋だったが、寝る部屋は別々になっており特に相部屋の生徒とも問題はなかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

高度が高いこともあり、予想よりも涼しく、むしろ夜は冷えるくらいだった。大学周辺の治安は他の地域に比べたらとてもよいほうであったが、バスや鉄道には極力乗らないように言われた。お金は現地のお金、アメルカドルに分けて持っていた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

プログラム先の大学が警備に関してはとても気を配っていた。逆に、気を配っていないと危ない場所なんだなと感じた。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費14万、プログラム費3万、その他で3万。家賃や食費はプログラム費に含まれる。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大から6万円受給した。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

近くのスーパーマーケットで買い物をしたり、友人と夕食に出かけたりした。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

しっかりしていたのかもしれないが、あまりお世話になった記憶がないのでわからない。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

基本的には充実していたが、利用する機会がなかった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私はこの度、メキシコのモンテレー大学にて開催された、環太平洋諸国の大学生のためのリーダーシッププログラムに参加しました。プログラム中では、問題解決のためのアプローチや起業のために必要な心構えなど、将来リーダーとして求められることを講義として学びつつ、実際に参加者が幾つかのグループに分かれて、与えられたメキシコの社会問題に関する課題の解決に取り組みました。グループでの活動は、実際に社会問題となっている現地にて調査を行い、みんなで情報を整理した後ディスカッション、そしてプレゼンテーションのための準備という流れでした。具体的に私の属したグループでは、「仕事に就けないため貧しく道端で物売りをしてる人々の生活をもっとよくできないだろうか」というもので、この問題について経済的な側面、政治的な側面など様々な面から考察しました。これらは勿論すべて英語にて行われるわけですが、ディスカッションの時間が個人的にとっても大変でした。参加者のほとんどがなままっている、しゃべるスピードが入試のリスニングの比ではない、ディスカッションの展開がとんでも速い、など日本においては絶対経験できない英語の時間を過ごせました。しかし、実際は話の流れについていくので精一杯で、私はディスカッションで意見をあげることがほとんどできず悔しい思いをすることになりました。

このプログラムは上に挙げた活動の他にもメキシコの下町や遺跡を観光したり、サッカーをみんなと楽しんだり、博物館を巡る時間も準備されていました。観光に関しては、一人で行くだけでは絶対に知りえないような場所や歴史をメキシコ人の友人が教えてくれ、また、友人たちと楽しく喋りながら町を廻ることができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

最初は不安だったプログラムですが、プログラムを終えた今となって振り返ると、周りのすべてが自分にとって新しく、刺激を常に受けている状態で、今までの生活からは考えられないほど濃い時間を過ごせたと思います。

②参加後の予定

院試の準備。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

日本では絶対に味わえない濃い時間が過ごせます。迷っている人はとりあえず参加してみることをおすすめします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

気になることがあった時、そのたび調べれば良いと思う。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。